

第 24 回 コムズフェスティバル 市民企画分科会 実施報告書

グループ名	特定非営利活動法人日本交流分析協会 松山会
開催日時	令和 5 年 2 月 4 日
テーマ	「子育て・親育ち」～楽しむってなあに?～
形 式	講演&ワークショップ
講 師 等	白百合女子大学名誉教授 一般社団法人生涯発達支援研究所 代表理事・会長 田島 信元先生
参加人数	女性 10 名 男性 2 名 合計 12 名

〈内容〉

【1部】「子育てについて」田島信元先生の講演

子どもは自ら持つ潜在能力として「育つ力」を持っている。その能力を十分に発揮させていくには、親との関わり方がとても重要である。「対話の中で学ぶ」潜在能力で、親は子供の問いに対して瞬時に応答することで子どもの能力が高まると同時に信頼関係を築いていく。関わり方は三段階の発達「(向かい合いの関係)」「並びあいの関係」「重なり合いの関係」に合わせることで、子どもの能力を引き出していける。

子どもと楽しみ子どもの気持ち・能力を発見し、子を尊重し親の考えを提案して支援する。そうすると、子ども自ら行動するので、親はそれを見守り、子どもからの要請があれば“即時応答”をしていく。これを繰り返すことで子どもは自由な発想で自ら学習し、成長していく。

(ワークショップ)「楽しめない事」について 会場とオンライン (全 4 グループ)

冒頭の田島信元先生の講演を踏まえて、会場は各グループ 3 人～4 人で自由に対話、意見交換。Zoom 参加者 2 人はブレイクアウトルームにて対話、意見交換を実施。その後全体に発表。この発表を受けて、田島先生がまとめのコメントを実施。

【2部】「親育ちについて」田島信元先生からのコメント

親は、子どもを育てていく中、子どもを支援しながら、その経験こそが自分育ての力として、親自らも発達を促進することが可能であると考えます。人間は、いくつになっても発達を続けることができる。50 歳 60 歳 70 歳といくつになっても伸びていくことができる、ただそれをするかどうか、だけの違いである。親は、義務感から解放された自由な心で、親子ともに一緒に楽しみながらともに育っていく事が大事である。 子育て=自分育て=親自身の「親」育ちである。

〈参加者の感想〉抜粋

- ・見守ることの大切さ、意味についてよく分かった。
- ・子育ての仕方を変えることで親も育つという、人との交流共同作業は一生継続とすることを心した。
- ・しっかり見守ることが大切だと感じた
- ・中年期・老年期になっても人は成長することが判り若いへの不安が解消されました。
- ・今からでも潜在能力を信じて新しい事に挑戦していきたい。

〈まとめ〉

自分で育つ力は、実際の子どもだけでなく、誰しにも当てはまる概念とってよいのではないだろうか。

そして、その自分で育つ、潜在能力を發揮するためには、ひとりではなく、必ず他者が必要であると言える。特に小さな子ども時代には、子どもと母親あるいは父親が、一緒に遊ぶ、一緒に楽しむ、ということがとても重要である。そのためには、母親、父親のこころの元気も必須である。両親だけでなく、祖父母にあたる方も就労されている現在の家庭環境では、長い時間をかけずとも、短い時間でも質のよい、共に遊び、共に楽しむことができるための支援や場の提供を弊協会として考えていきたい。